

平成 28 年度第 2 回仙台市男女共同参画推進審議会 議事録

日 時 平成 29 年 1 月 31 日 (火) 10 : 00 ~ 12 : 00

会 場 仙台市役所本庁舎 2 階 第三委員会室

出席委員 下夷美幸会長、加茂光孝委員、河原木美智也委員、
菅野澄枝委員、佐藤理絵委員、須田ゆう子委員、高橋次男委員、
立岡学委員、村松敦子委員、渡辺安子委員

欠席委員 蘆立順美委員、佐藤慎也副会長、永井豊子委員

事務局 寺田市民局長、小林市民局次長兼協働まちづくり推進部長、
柴田男女共同参画課長、蛸名主幹兼企画推進係長、男女共同参画課担当者

次 第

1 開会

2 市民局長あいさつ

3 協議

- (1) 会議等の公開等について
- (2) 議事録署名人の指定について
- (3) 平成 28 年度女性活躍推進事業実施状況について

4 報告

- (1) 「東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金」の終了について
- (2) エル・パーク仙台 30 周年記念イベントの開催について

5 その他

6 閉会

1 開会

○蛭名主幹兼企画推進係長

ただいまより、平成28年度第2回仙台市男女共同参画推進審議会を開会いたします。本日の審議会は10名の委員の方々にご出席をいただいております。なお、佐藤慎也委員、蘆立委員、永井委員はご都合により欠席でございます。はじめに、市民局長の寺田よりごあいさつをさせていただきます。

2 市民局長あいさつ

○寺田市民局長

改めまして皆さま、おはようございます。市民局長の寺田と申します。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。本年度第2回目の審議会の開催にあたりまして、一言ごあいさつをさせていただきます。

男女共同参画社会の実現に向けて、ひとつの大きな課題となっておりますのが固定的性別役割分担意識の解消ということでございます。昨年の10月に内閣府が発表した「男女共同参画社会に関する世論調査」では、「女性は子どもができて働き続ける方が良い」と答えた人が54.2%にのぼり、平成4年の調査開始以来、初めて半数を超えたということで話題になりました。また、9月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した、「第一子出産後も仕事を続ける女性の割合」については、これまでずっと4割前後で推移してきたところですが、2010年～14年に出産された方では53.1%と、初めて5割を超えたことも明らかになりました。人々の意識や生き方は、少しずつではありますが、着実に変化しつつあると受け止めているところでございます。

本市におきましても、昨年3月に策定いたしました「男女共同参画せんだいプラン2016」に基づき、さまざまな施策を推進しているところでございますが、本日はその中から、国の交付金をいただくなどして重点的に取り組んでおります「女性の活躍推進」につきまして、実施状況などをご報告させていただきます。

ぜひ、審議会委員の皆さまからご意見を賜り、今後の展開に活かしてまいりたいと考えておりますので、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

【配付資料確認】

○蛭名主幹兼企画推進係長

早速協議に移らせていただきます。本審議会は議事録作成のため、録音をしております。ご発言の際はマイクを使用してお話しいたいただきますようお願いいたします。これ以降の進行は下夷会長をお願いいたします。会長、よろしくお願い申し上げます。

3 協議

(1) 会議等の公開等について

○下夷会長

はじめに「協議(1) 会議の公開等について」です。会議の公開・非公開は審議会の都度、この場で決定することになっております。事務局にお尋ねします。本日、特に非公開とすべき案件ご用意ありますでしょうか。

○柴田男女共同参画課長

本日は、非公開とすべき案件は用意しておりません。

○下夷会長

それでは本日の会議は公開とし、本日の議事録についても後日公開するというようにさせていただきますと思いますが、皆さまよろしいでしょうか。

(全委員了承)

○下夷会長

それではそのようにいたします。

(2) 議事録署名人の指定について

○下夷会長

では「(2) 議事録署名人の指定について」です。これは私から指名させていただくことになっておりまして、毎回ご出席いただいている委員の皆さんの中から順番にお願いをさせていただいております。今回は立岡委員と渡辺委員に議事録の署名人をお願いしたいと思いますが、お引き受けいただけますでしょうか。

(立岡委員・渡辺委員了承)

○下夷会長

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

(3) 平成28年度女性活躍推進事業実施状況について

○下夷会長

それでは協議の「(3) 平成28年度女性活躍推進事業実施状況について」に移ります。これにつきましては事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○柴田男女共同参画課長

今年度、職業生活及び地域における女性活躍推進という点で進めております本市の事業につきまして、ご説明させていただきます。

(資料1に基づき説明・省略)

以上でございます。

○下夷会長

どうもありがとうございました。ただいまの事務局からのご説明につきまして、委員の皆さまの視点からご質問なり、ご意見なり、また今後の取り組みの方向性なり、どうぞご自由にご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

○村松委員

市内表彰企業ということで、(株)セレクトィーと(株)門間筆筒店の2社が表彰されたということですが、具体的に教えていただけますでしょうか。

○柴田男女共同参画課長

(株)セレクトィーの表彰理由につきましては、「子育て等と両立しやすい短時間正社員制度の導入」「再就職支援制度の導入をしていること」「社員一人一人の良さや意見を引き出す各種活動と、トップがそれらを推進していること」「若手女性の重要ポスト登用や、パート社員の正社員化等による業務改善を行っていること」などが挙げられております。

(株)門間筆筒店につきましては、「多様な人材の採用と工程の細分化による生産体制の拡充」「多様なキャリアを生かした販売マーケティングの強化」「若手を中心に製造販売の連携を活発化していること」などが表彰の理由となっております。

○下夷会長

渡辺委員、どうぞ。

○渡辺委員

今年の4月から仙台市が始めます、公共調達における優遇措置の詳細について教えていただければと思います。資料では工事の入札参加資格の格付評点への加点となっておりますが、例えば物品の調達への加点までは含まれていないようにお見受けします。こういった加点制度を進めていくのであれば、より多くの、働きやすい魅力ある職場づくりに取り組んでいる企業のインセンティブになるような形で、枠を広げて行ってほしいと考えております。

それから「えるぼし」だけでなく、「くるみん」についても同様に加点がなされるというご説明があったかと思えます。「えるぼし」「くるみん」両方の認定を取っている企業もありますが、そういった場合はダブルで加点されるということによろしいのかどうか。

また「くるみん」においては、「くるみん」と「プラチナくるみん」の2段階での認定制度になっていますが、どのような形で加点される制度になっているのか、教えていただければと思います。

○柴田男女共同参画課長

格付評点の対象は、「工事に係る入札参加資格者名簿への登載業者」となっておりますので、土木・電気等の工事業者に限られているものです。ただ、こちらの格付評点だけではなく、例えば企業からの提案型の事業や指定管理者の募集におきましても、実施する担当課で加点をすることができますので、そうしたことを庁内に普及啓発していくこととしております。

もう1点、「くるみん」と「えるぼし」のダブルで加点できるのかということですが、それぞれに加点の項目がございますので、両方取得している企業につきましては、それぞれで加点することとなっております。

また、「くるみん」と「プラチナくるみん」では、点数に差はなく、どちらを受けていても10点の加点となっております。

○下夷会長

職業生活につきまして、何かほかにございますか。

○菅野委員

こちらの資料を拝見して感じたのは、表彰・認定を受けている企業は、今からイメージアップしなくても、「就活などで学生が来なくて困っている」というようなところではないのではということです。日本を支える多くの企業というのは、こうした大きなところだけではないように感じます。「労働者数301人以上」という、「えるぼし」認定に関する基準は、かなり大雑把と感じます。

静岡県にお邪魔したときに、富士市の町内会には、会長・副会長などと同じような感覚で「男女共同参画推進員」という方がいらっしゃるとお聞きしました。そういう方々が啓蒙・啓発してくださるという状況が整えば、中小企業や、商店などにも、男女共同参画の意識をお伝えするということができるのではないかと感じました。

○下夷会長

ありがとうございます。今日は企業のお話が多かったんですが、仙台市は女性の起業にも力を入れているということでした。その点についての取り組みは、今回いかがでしたでしょうか。

○柴田男女共同参画課長

仙台市では、経済局地域産業支援課が中心となって、起業の相談窓口に常に女性の相談員を置くようにしたり、女性の起業者を支援するために、市内で支援ネットワークを構築したりするなど、女性の起業者を支援する取り組みを行っております。また、そうした女性の起業家が集まるようなイベントなども開催されています。

○下夷会長

ありがとうございます。大きい企業や小さい企業、役所、さらにご自身で新しい業を起こされるなど、さまざまな形の働き方があるかと思っておりますので、それらに向けてきちんと目配りした推進策をお願いしたいと思います。

次に「地域における女性活躍推進」について、何かご質問なり、またはご意見なりありましたらお願いいたします。

○佐藤（理）委員

「地域における女性活躍推進」というのは、とても重要なテーマだと思います。3点ご質問させていただきます。

1つは、「女性と防災まちづくり」の研修事業は、今後も継続していく予定なのか。

2点目は、「企業の未来プロジェクト」では受講生同士のネットワークを形成するという点で、さらに広がりを見せているわけですが、「女性と防災まちづくり」の受講生の皆さんのネットワーク化が、今後進んでいくような様相があるのかどうか。

それから3点目は、仙台市地域防災リーダー（SBL）についてです。平成28年の全体的なSBLの受講者数が大きく減少していますが、何か理由があるのでしょうか。また、SBLになっても、女性たちが、なかなか地域の町内会の中で力を発揮することができないという悩みを抱えている、という話をお聞きします。イコールネット仙台でワークショップを実施するなど、地域のネットワークづくりにも進んでいるところですが、仙台市としてはこのSBLの女性の皆さんが地域で活躍できるような、環境整備のための支援をしていく計画があるのかどうか、お聞かせください。

○柴田男女共同参画課長

「女性と防災まちづくり」の研修事業につきましては、「男女共同参画せんだいプラン2016」の中で、5年間で100人の参加者数を目標にしておりますことから、5年間は継続したいということで、財政部局と交渉しているところでございます。

また、受講生同士で今後につながるネットワークをつくっていただけるように、事業を実施する中で支えているところでございます。

平成28年度のSBL養成講座の受講者数が減っている理由ですが、最初のうちは町内会長さんなどの出席が多く、年代も上の方が多かったため、その後は新しい世代を補充するという点で、大々的にはではなく、少しずつつなげていくこととしているものです。先ほ

ど佐藤（理）委員がおっしゃったとおり、地域の中でちゃんと活動・活躍していただけるようなフォローアップに努めていくことが、今後の課題です。

また、SBLについては、確かに町内会との連携や、地域の中で男性も女性も問わず活動していくという点について、難しい面があるかと思えます。今後、区役所との連携の方策について、私どもが間に入るなどして、支援していければと考えているところでございます。

○佐藤（理）委員

ありがとうございました。

○下夷会長

「仙台市地域防災リーダー」と、イコールネット仙台が主催されている「女性のための防災リーダー」とは、どういう関係にあるのでしょうか。また、何かうまく連携なり、役割分担なりという形で、女性の防災リーダーが育ち、力を発揮できるような仕組みになっているのかどうかを、教えてください。

○柴田男女共同参画課長

仙台市が実施しているSBLの養成につきましては、男女を問わず、仙台市内にお住まいの方で、団体からの推薦や自薦で研修を受けていただいているものです。また、「女性のための防災リーダー」につきましては、イコールネット仙台が主催する研修を受講いただくもので、修了生は「女性防災リーダーネットワーク」を結成し活動されています。

イコールネット仙台の研修には、市のSBL養成の担当部署である危機管理室が出向き、講座を受け持つなど、連携しているところです。

ただ、活動の場につきましては、SBLと比較すると「女性防災リーダーネットワーク」の方が、独自のネットワークを広く持っており、仙台市内だけではなく、市外からもいろいろな要請に基づいて研修をされているなど、活動の幅を広げていらっしゃいます。

○下夷会長

よろしければ、菅野さんお願いします。

○菅野委員

SBLに関して、皆さんとても興味を持っていただいて、本当にありがたいことだと思います。SBLは平成24年度の受講生が一期生です。仙台市の危機管理室と消防局が事業を開始されたときには、一般公募枠がありませんでした。そのため連合町内会推薦の方々ばかりとなったことで、資料にあるような数字となっています。大体が町内会の防災担当者、もしくは会長・副会長クラスの方々でした。

私は、平成 25 年度の SBL 二期生です。同時期にイコールネット仙台の「女性のための防災リーダー養成講座」が開始し、そちらに参加することの要件の 1 つが、「SBL になること」でした。それというのも、「いくら知識を覚え、表現やコミュニケーション能力をつけたとしても、地域で生かせないものに関しては意味が薄いのではないか」ということで、地域で生かせる人材育成という観点から、SBL が要件の 1 つとなったのです。

ところが、平成 26・27 年度の数字を見ていただくとわかるように、この増えた SBL の女性の数、それから「女性のための防災リーダー養成講座」を受けた人数を継続して取りまとめていく、一期生、二期生と同じような密度でネットワークを築いていく、ということに関しては、課題があることだと思います。

ネットワークというのは、必ずしもきちっとした、拘束するような形でなくても良いのです。どんどん形を変えて、多くの人の中、SBL にならなかった女性がいたとしても応援していける体制というのは取っていく必要があると、その中にいて感じているところです。

なぜ平成 28 年度の SBL 受講者数が少ないか、ということに関して補足しますと、SBL は「連合町内会に 5 名」というのが 1 つの基準です。そうなりますと、熱心な連合町内会さんは平成 27 年度までに既に 5 名を充足してしまっており、平成 28 年度の受講者は、腰の重たかった町内会が、出てくれと言われて出た分、ということになります。もちろん先ほどおっしゃったように、高齢の方、それから病気の方などが抜けられた分、別の方に SBL として活動してもらいたいという意図があったかとも思われます。

加えまして、SBL の女性がなかなか町内会で活動できていないということに関してです。私が講演会などでお話しさせていただいたとき、終了後に、高齢の男性がご相談に見えて、「町内会と連携できない」とおっしゃるんです。要は、連合町内会の推薦がなかった方に関しては、男性でもやはり「町内会長と会ったこともない」という方もいるのが現状だと思われます。そこに関しては、危機管理室や区のほうでも理解を示していただいて、会長さんの名簿と SBL の名簿をお互いに交換する動きというのを取っているところです。

バックアップ講習会などのときに、会長さんもお呼びして、「こういう方々が SBL なので、いざというときにはご活用ください」と、お知らせはしているんですが、なかなか地域レベルになると難しいと感じております。

○下夷会長

どうもありがとうございます。大変貴重なお話を伺うことができました。せっかく受講されている SBL は、男女ともに地域の貴重な資源なわけですから、そういう大事な人的資源が皆さんのために活躍していただけるような形が進むように、市としてもバックアップ、また働きかけをお願いしたいと思います。

「みんなのための避難所づくりワークショップ」について、こういったところで女性が活躍するのは良いなと思います。一方でこの写真を見ると、写っているのが女性しかいませ

ん。やはり男女と一緒にワークショップなどをしていくことが一番大事かと思いますが、実際のところはどうなのでしょう。

○柴田男女共同参画課長

町内会などを会場に実施するときには、もちろん男女ともに皆さん出ていただいております。たまたま写真として使っているのが、女性たちが集まったシーンというだけです。ご安心いただければと思います。

○下夷会長

せっかくこのようなテキストのツールもできたことなので、多様な世代、多様な特性を持つ人たち、ジェンダーにおいても多様な人たちが一緒になってこういうワークショップなどを積み重ねていくことが、一番重要なのかなと思います。

ほかはよろしいでしょうか。

○村松委員

実施主体が、「みんなのための避難所づくりワークショップ」では男女共同参画財団、「女性のための防災リーダー養成講座」ではイコールネット仙台など、ばらばらになっています。「地域に戻って活躍できない」という問題が今出てきている中で、本当に地域での女性活躍を推進するということであれば、財団やイコールネット仙台などを集めて、「地域づくりをするために女性をどのように生かすか」といったことを、もっと大きなところで取りまとめるのが必要だと思います。それを誰がどこで統括していくのか、その目途についてお聞きしたい。

○柴田男女共同参画課長

私どもで所管している「男女共同参画せんだいプラン」の中では、「復興・未来へつなぐまちづくりにおける男女共同参画」という視点で取り組みを進めるということにしております。私どもとしては、それぞれの団体の活動を把握しながら、地域の中で女性だけではなく、多様な人がまちづくりに参画していく必要性というものを、各団体、仙台市が行っていることを通じて、普及啓発していくという形になるかと思っています。

○小林市民局次長兼協働まちづくり推進部長

今日は、それぞれの団体が行っている内容ということでご紹介をさせていただきました。プランに基づいて実施していくという部分は、本当に骨組みとして押さえていきたいところではありますが、こういったことを統括して進めていくべきは、やはり仙台市になるかと思っています。

プランの中で、「町内会長に占める女性の割合」について随分前からモニタリングをして

おりますが、1割に満たないという状況が続いております。震災後に、防災などを中心に、地域で活躍される女性が非常に多くなっており、こういった方々に町内会組織に入っているだけで、ご活躍をいただくということも今後進めていかなければならないと考えているところです。

皆さんもご案内のとおり、町内会の組織率については、仙台市は全国の中でも非常に高い割合でこれまで推移してきたのですが、会長さんの中でも、なかなか手がいないとか、高齢化しているとかで、次の人材を探さなくてはいけないという状況の中、町内会自身でも課題意識としてお持ちであるということもわかっております。

「女性がこういった形でこれまでいろいろなリーダーになられていますよ」というような情報などもお互いに出し合いながら、女性の地域での活躍について、来年度以降、仙台市としても町内会連合会などとも情報を共有しながら進めていければと考えております。

○立岡委員

説明を聞かせていただき、改めて「男女共同参画せんだいプラン2016」を見ると、内容がたっぷりで、実際にこの内容を5年間で実践するとなると、結構大変だと感じます。プランを策定して終わりではありませんので、当然ながら、実行していくにあたっては、「どれだけの予算があるから、これだけの内容をどこまで進められるか」というのが大事だと思います。限られた予算の中で、いかに効率的に、費用対効果を高めながら、このプランを実行に移していくかということを見ると、「連携」が非常に大事です。

いろいろなところと連携しながら、事業を仕掛ける中で、今まで全く考えていなかった相手とも連携し、まさに「創発」するような取り組みを進めてもらいたいと思います。

○須田委員

民間企業の立場からお話しさせていただくと、「職業生活における女性活躍推進」の項目に、取り組みがいろいろと書いてありますが、やはり「企業に対するアプローチ」という部分が、一番弱いと感じます。

企業は経済活動優先になりますので、女性活躍推進が営業活動にどのくらい直結するかという部分が重要で、入札で優遇されるというようなことでは効果が薄い。もう少し強制的な力というのが働いても良いのではないのでしょうか。「働く女性の意識を改革していく」というところがどうしても一番になってしまいますが、経営者や働く同僚の男性たちはどうなのかというところでは、もう少し強制的な力を持ってやっていただいたほうが、企業としてはむしろありがたい。

プランには、「セミナーや出前講座の実施」という項目があります。例えば301人以上の企業に対し、「5年以内にこういったセミナーや講座を、必ず年間〇日間実施しなければいけない」くらいのことでいかないと、恐らく企業は動かないだろうと考えます。

「地域における女性活躍推進」のほうはむしろ進んでいって、「職業生活における女性活躍

推進」というのは、政府が掲げる目標は、絶対達成できないだろうと私は見ていますし、それに対して「女性ががんばれ」ばかりでは、かえって女性はプレッシャーを与えられて気の毒だと思います。

働く女性の数は恐らく増えるとは思いますが、収入の問題や、管理職などある程度の権限を持つことができるかなど、世の中全体が「女性の視点」という部分で変わっていかないといけないと感じています。ぜひ、企業、経営者、あるいは一緒に働く男性に対するアプローチを、もう少し強くしていただけると良いと感じます。

○下夷会長

ありがとうございます。今回の資料にある、仙台市の管理職に占める女性の割合が政令市 20 都市中 18 位という事実は重く、皆で共有して、本当の意味で、女性たちが力を発揮できるよう引き上げていくという、少し踏み込んだ対応をぜひお願いしたいと、私も思います。前例に捉われずに、公的な組織も踏み込んで、民間企業に何か働きかけていただきたいと思っています。

○加茂委員

子どもを保育園や幼稚園に入れているお母さんたちは、自己発揮、自己実現など、活躍するという意識はすごく高いです。でもやはり転勤があるなど、なかなか仕事を続けられないという現状があります。

昔でしたら、家にお母さんと子どもがいる、という状況があったと思いますが、そこではお母さんがずっと子どもを見ているわけではなくて、おじいちゃんやおばあちゃんがいったり、地域の子ども、お兄ちゃん、お姉ちゃんたちと遊んでいるという風景があったと思います。

今、それがなくなってきている中で、子どもが一番多いところはどこかと言ったら保育園、幼稚園なんです。そこで、仕事をしていなくても、保育園に子ども預けられるようなシステムがあれば、お母さんたちが防災のほうに目を向けたり、起業したりするなど、一歩踏み出せるのではないかと思います。お母さんたち、お父さんたちが、何か自分のことを実現できるような環境があり、それを見ている子どもたちも「自分たちのお父さん、お母さんたちがいきいきしているなあ」などと思いながら、大人になっていければ良いなと思います。

○河原木委員

細かいところですが、今回の資料の中で、例えば 10・11 ページの総務省の数値が平成 24 年度のものというのはいかがなものでしょうか。先程のお話にあった、市役所の女性管理職の割合が平成 28 年 4 月現在で 16.1%だということなどからすると、政令指定都市の中で仙台市の女性割合がここまで低いというのが疑問です。もっと直近の数値が把握できれば、

向上しているという実感ができるのではないかと思いますので、もし新しい資料があれば、それらもご紹介いただければと思います。

○柴田男女共同参画課長

平成24年の調査結果を採用している部分につきましては、政令指定都市の比較ができる統計結果が、この5年に1回の「就業構造基本調査」しかございませんでしたので、今回このような形になっております。全国的な比較となりますと、こうした調査を使わざるを得ませんので、仙台市としましては、市内企業の意識の面などについて、アンケートなどを通じて把握しながら進めていきたいと考えております。

○下夷会長

ありがとうございます。ぜひ良い形で他市と競争して、頑張っていただきたいと思います。

今日は「女性活躍推進」というテーマで、職業生活と地域生活についてお話しいただきました。言うまでもないことですが、「女性活躍推進」というところに社会の目が大きく当たっている中で、貧困層の女性の方たちなど、そのスタートラインに十分立てない段階にいらっしゃる方が、置き去りにされないようにというのは常に心して、こういう問題を考えていきたいと思えます。次回の審議会では、そういったことについても多くの情報をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

大変活発に熱心なご議論をいただきまして、ありがとうございます。協議事項は以上で終了となります。「4 報告」に移ります。事務局からお願いいたします。

4 報告

(1)「東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金」の終了について

○柴田男女共同参画課長

資料4に基づきまして、せんだい男女共同参画財団総務企画課長の柴田よりご説明させていただきます。

○公益財団法人せんだい男女共同参画財団柴田総務企画課長

お手元の「東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金事業報告書」につきまして、簡単にご説明いたします。

(資料4に基づき説明・省略)

引き続き、エル・パーク仙台館長の加藤よりご説明いたします。

(2) エル・パーク仙台30周年記念イベントの開催について

○エル・パーク仙台加藤館長

お手元にごございます資料の5、「エル・パーク仙台30周年記念イベント『さあ、その先へ!』」についてご案内差し上げます。

(資料5に基づき説明・省略)

○下夷会長

ありがとうございます。ノルウェー基金はこれで終了という形になりますが、非常に多くの事業が展開され、その人的ネットワークも残っておりますし、さらに基金とは違う形でも良い取り組みについては継続して実施していけるように、市としてもさまざまな配慮をお願いしたいと思います。

「3.11」の関係では、今年は何か予定はありますか。

○柴田男女共同参画課長

仙台市としましては、3月11日に追悼のイベントを実施することとしております。また例年よりも規模を縮小した形で、防災関係のイベントを実施する予定です。

加えて、3月11・12日の2日間、イコールネット仙台が国際センター駅を会場に、女性と防災のイベントを開催するとお聞きしておりますので、私どもも参加させていただければと思っております。

○下夷会長

ありがとうございます。いろいろな機会を通じて継続的に発信できると良いと思います。

5 その他

○下夷会長

それでは「5 その他」ということで、委員の皆さまから何かございますか。よろしいですか。事務局のほうからは何かございますか。

○柴田男女共同参画課長

本日は特に用意してございません。

○下夷会長

それでは、本日予定しておりました議事はこれで終了いたしましたので、進行を事務局にお戻しいたします。

6 閉会

○蛭名主幹兼企画推進係長

下夷会長、ありがとうございました。最後に事務局からいくつかご連絡をいたします。

議事録の作成につきまして、事務局が原案を作成して、出席された全委員にお送りいたしますので、ご確認をお願いいたします。皆さまにご確認いただいたのち、議事録署名人の方からご署名をいただきまして、市政情報センターと仙台市ホームページにおいて公開をさせていただきます。

次回の審議会の日程についてでございますが、会長・副会長と調整をさせていただいて、別途ご案内をさせていただきます。来年度6月か7月ごろの開催を予定しております。

それでは以上を持ちまして、本日の審議会は終了といたします。進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。—了—

議事録署名委員の署名

仙台市男女共同参画推進審議会委員

立岡 学

仙台市男女共同参画推進審議会委員

渡辺 安子